

森林総合研究所プレスリリース

ホームページに掲載したプレスリリースをご紹介します。詳しくお知らせになりたい方は、下記案内より当所ホームページをご覧ください。

●2018年1月25日掲載

小笠原諸島に固有の海鳥をDNA分析で発見——セグロミズナギドリとされていた小笠原の海鳥は全くの別種だった

小笠原のセグロミズナギドリは、これまで世界に広く分布する種の1亜種とされてきましたが、小笠原諸島の固有種であることを発見しました。この鳥の繁殖が確認されているのは、小笠原諸島の東島と南硫黄島の2島だけです。歴史的にはオガサフラミズナギドリと呼ばれていたこともある小笠原を代表する鳥で、この和名の復活が期待されます。

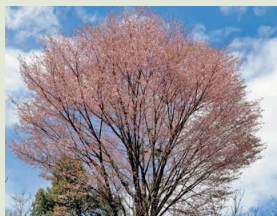
●2018年3月30日掲載

紀伊半島から新種、クマノザクラを発見——観賞用の桜として期待

紀伊半島南部に未知の野生のサクラが分布していることを確認しました。国内の野生のサクラとして、およ



小笠原諸島の「セグロミズナギドリ」。南硫黄島の繁殖地で撮影。



クマノザクラの樹形



樹種ごとに特有の風味を持つアルコールができます。(左:スギ、右:シラカンバ)



マダニ成虫を捕食するオオヤドリカニムシ

そ100年ぶりに新種の学名が発表されました。染井吉野に代わる新たな観賞用樹木として期待されます。

●2018年4月26日掲載

木を発酵して香り豊かなアルコールができました——まだお酒未満ですが、新たな可能性を拓く技術開発に挑戦します

化学処理や熱処理を行わず、木材に食品用の酵素と酵母を加えてアルコール発酵する技術を開発しました。スギやシラカンバを原料にアルコール発酵して蒸留すると、それぞれの樹種に特徴的な豊かな香り成分を含むアルコールができました。今後、長いお酒の歴史上初めての「木のお酒」の製造が可能になるかもしれません。

●2018年6月5日掲載

マダニの新たな天敵を発見——森のネズミと暮らすカニムシはマダニを捕食する

野生動物由来の感染症の拡大が懸念される中、これらの感染症を低減するための適切な生態系管理手法の開発に取り組んでいます。森に生息するネズミと共生するオオヤドリカ

ニムシが、ネズミに寄生するマダニを好んで捕食することを発見しました。このようなマダニの天敵が野外で十分活躍してくれるよう、適切な生態系管理手法を開発してゆきます。

森林総合研究所研究報告

▼論文

2011年の福島第一原子力発電所事故で放出された放射性セシウムの野生ゼンマイ (*Osmunda japonica*) の葉への移行

清野 嘉之・小松 雅史・赤間 亮夫・松浦 俊也・広井 勝・岩谷 宗彦・二 元 隆

育林経営再編の諸相——林業ビジネス化への示唆——

大塚 生美・堀 靖人・山田 茂樹・岩 永 青史・天野 智将・駒木 貴彰・餅 田 治之

2011年の福島第一原子力発電所事故で放出された放射性セシウムの野生フキ (*Petasites japonicus*) の葉柄への移行

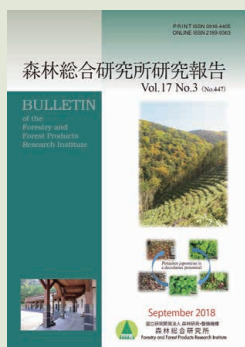
清野 嘉之・赤間 亮夫・岩谷 宗彦・由田 幸雄

森林総合研究所研究報告

Vol.17 No.3 (通巻 447 号)

2018年9月

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/bulletin/index.html>



▼研究資料

帰還困難区域で発生した森林火災が樹木樹皮と表層土壌の放射性セシウムの蓄積に及ぼす影響

金子 真司・後藤 義明・田淵 隆一・赤間 亮夫・池田 重人・篠宮 佳樹・今村 直広

石狩川源流地域における大規模風倒跡地の森林再生過程のデータ

伊東 宏樹・中西 敦史・津山 幾太郎・関 剛・飯田 滋生・河原 孝行

次号の特集

次号 44 号の特集は、「林業のいまを知りたい!」と題して、いまの林業が抱える問題点や展望を整理しつつ、改めて若い世代へ向けて林業の世界についてご紹介します。

対談は、三重県津市美杉町の林家だっ

た祖父から着想をえて、林業をテーマとして描いた青春小説『神去なあな日常』や『舟を編む』などで人気の直木賞作家・三浦しをんさんと、当研究所の宇都木玄研究ディレクター (林業生産技術研究担当) です。乞うご期待。

プレスリリース等の最新情報はこちらから→

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/topics/index.html>

お問い合わせ

森林総合研究所
企画部 広報普及科 広報係
TEL 029-829-8372
Email kouho@ffpri.affrc.go.jp

